

若い仲間たちとともに、19春闘を職場から創造的につくり出そう！

5

電機大手ペア1000円 生保は年収ベースの引き上げ・ペア見送り

電機ペア1000円 前年割れ

要求は3000円 労組受け入れへ

今年の春闘で、電機大手12社のベースアップに相当する「賃金水準改善」が月1千円で決着する見通しになった。経営側が13日に回答し、労組も受け入れる方針だ。賃金水準を底上げするペアは6年連続だが、昨年より500円低い。ペア額をその年の統一交渉については見直し論が強まっている。

統一交渉見直し論も

春闘では長く、大企業の労組がそろってペアを求めるところで、交渉力と、中小企業の賃上げを後押しする波及力を持つてきた。先導役を務めてきた電機業界で統一交渉の慣行が崩れると、その影響は春闘全体に及ぶ可能性がある。電機大手の今回の統一交渉には12社の労使が参加している。パナソニック、日立製作所、富士通、東芝、三菱電機、NEC、シャープ、富士電機、村田製作所、OKI、安川電機、明電舎だ。各社の労組は、30歳相当の開発・設計職で月3千円のペアを要求。経営側が望む月1千円での回答について、12社の労組は11日の会合で、受け入れる方針を確認した。電機メーカー各社の労組でつくる電機連合の野中孝泰中央執行委員長は「この日の記者説明会で、会社側に6年連続(のペア)で固定費が増大するとの危機感が

年	要求額	安結額
13年	0円	0円
14年	2000円	4000円
15年	3000円	6000円
16年	1500円	3000円
17年	1000円	3000円
18年	1500円	3000円
19年	1000円	3000円

電機大手の統一交渉のペア安結額
19年の安結額は見込み

あり、論議が進まなかった」と話した。電機業界では、米中貿易摩擦を背景に中国経済の減速が響き、業績見直しを引

き上げる企業が相次ぐ。村田製作所が今年3月期に前年比で7割近い営業増益を予想する一方、東芝は大幅な営業減益を見込む。

その東芝は人材流出を防ぐ目的もあって昨年からの統一交渉に復帰したが、早期退職も募っている。東芝の50代の男性社員は2月、上司に「あなたの仕事がなく」と応募を促され、断ると地方への転勤をほめられたという。「将来まで安心して働けない会社には若者は集まらない」と憤る。

2019/03/12 朝日新聞

電機大手、前年割れ！
 統一交渉見直しか！？
 日本・明治安田ペア見送り！

日本生命保険が2019年春闘で総合職など約1万8千人の社員を対象に、定期昇給とボーナスを合わせた年収ベースで約3%の賃上げを実施する方針を固めたことが12日、分かった。明治安田生命保険もボーナスを引き上げるとともに、4月に入社する新入社員の初任給を5千円引き上げる。

日本生命は2年連続の賃上げとなる見通し。経営環境が厳しさを増す中、給与体系を改善することで優秀な社員の確保につなげたい考えだ。

明治安田生命は、4月から社員の定年を60歳から65歳に延長する。この制度変更で60歳以上の社員の給与水準を改めるとともに、約1万人の社員の給与を約3%引き上げる。

(2019/03/12 共同通信)

ると認めたらうえて来年以降も続けることに意欲をみせており、その効果を具体的に検証し、経営側に示す。今年春闘では、自動車業界の労組でつくる自動車連合が、ペアの統一要求額を掲げない。自動車業界は長く、電機業界と並んで春闘の先導役を務めてきた。(内藤尚志)

申15号「2019年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」の回答については3月15日までです！
 満額回答に向け、職場からたたかいを創り出そう！

